

平成21年度後学期 学生による授業評価アンケート調査 (最終)

「アンケート結果に応じて」

所属部局	人文学部		氏名	黄 愛珍			
講義コード	2372031010		講義名	数量経済分析			
開講曜日	火、水曜日	3・4 時限	専門科目				
授業回数	32 回	休講回数	0 回	補講回数	0 回	受講登録者数	42 人
成績評価に際し注意した事項							
出席点、課題、小テストと期末レポートによる総合評価							
報告内容							
<p>まずは、授業アンケートに答えてくれた受講生に感謝を申し上げます。 受講生は経済学科理論コースの学生からなる42名であり、回答率は76.0%でした。</p> <p>カルテのグラフによると、「学生が重要であると考え、その満足度が高い項目」としては、①学生の反応を確かめながら講義をしていた(満足率 81.3)。②教材の使い方が適切である(78.1)、学生に公平に接していた(78.1)③授業でシラバスの内容が反映されていた(75.0)などの項目があげられます。また重要度はそれほどですが、学生の質問・相談に応じる姿勢があったという項目の満足率は96.9という高い評価を得ています。これらの項目は本講義の授業特性から特に意識して注意した点であり、高く評価されてよかったです。今後も同様な評価が得られるように尽力していきたいと思えます。</p> <p>一方「学生が重要であると考えているが、その満足度が低い項目」としては、①授業の難易度は妥当である(40.6)②授業を受けて知識・技術が身に付いた(59.4)③授業の進度が適切である(62.5)、の3点が上げられています。特に授業内容が難しいという点は自由記述欄にも挙げられています。</p> <p>これはこの講義の特性による部分があります。本講義は経済政策の各経済主体(企業、家計など)、及び経済全体への影響を数値的に評価する分析手法をマスターすることを目的としている。これまで勉強してきた経済理論(ミクロ経済学、マクロ経済学)の知識だけでなく、GAMSというソフト(学生は初経験)の利用方法をマスターする必要があります。他の講義と比べると断然内容が濃く、難しくなります。今後はGAMSではなく、学生熟知のEXCELを利用する教材の開発などで改善を試みています。EXCELを利用できるようになれば、講義内容は現在に比べると大分容易になると思われれます。</p> <p>また「本講義は初めて扱うソフトを利用するので、毎回出席しないと講義内容についていくのが難しくなる」と、初回の講義時にアナウンスしたにもかかわらず、学生の数回連続欠席により、内容についていけなくなることもアンケート結果(授業の難易度)につながる一因となっています。</p> <p>また本講義の特性から、内容とスピードに留意し、特に学生の反応に留意しながら授業展開の工夫を行っています。これはアンケート結果(96.9%の学生が学生の質問・相談に応じる姿勢があったと評価)や自由記述欄のよかったところにも記述されています。</p> <p>自由記述欄によかったところとしては「質問にしっかり丁寧に対応してくれる」のほか、「配布資料が適切だった」、「みんなができるまで次へ行かなかったのが全員が習得できた」等があげられています。最後の点についてはみんなが理解できるまで説明をするため、逆に早く理解できた学生にとっては暇の時間がうまれたという改善点でもあります。また「質問が多すぎて十分には対応できていなかった」、「模範解答がほしい」、「すべて説明してから進める形式」との改善点も挙げられています。これについてはまずTA制度を利用して質問に十分対応できるようにし、また模範解答を配布するように今後改善していきたいと思えます。</p> <p>最後に、受講生からの意見(特に否定的なもの)には最大限耳を傾けながら、すぐに改善できる箇所から取り組んでいきたいと思っています。今後よりよい授業作りを心がけていきたいと考えています。</p>							